

マイサークル

アロマセラピーサークル

150

～やさしい香りが疲れた体を癒してくれます～



みなさん、こんにちは！

早速ですが、みなさんは毎日のお仕事やいろいろなストレスで疲れていませんか？そんな疲れた体や心をやさしい香り দিয়েしてくれるのが「アロマセラピー」です。

今年の5～6月に、アルタ白石で「アロマセラピー教室」が開催されました。たった5回の教室でしたが、すっかりアロマの香りに魅せられてしまった数名が、「5回だけじゃ物足りない！」と、教室終了後に、このサークルを立ち上げたわけです。

現在、メンバーは6名。講師は教室に引き続き、アロマコーディネーターの佐藤美帆さん。毎月第1、第3木曜日に、アルタ白石でアロマの香りを楽しんでいます。

みなさんも、すてきな「アロマセラピー」の世界を楽しんでみませんか？興味のある方は、ぜひご連絡ください。

☎アルタ白石 ☎25-3720

市民文芸

応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0257白石市字亘理町37-3、白石市情報センターへ。はがき1枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

歌壇

岩崎 聰之介 選

わが夫の闘病ながくいつよりか白くなりける
その農の腕 石田みどり
草取りの手の甲に来て止まりたる首夏の蜻蛉
のただひひうひし 鈴木 和江
棟上げの旗なびく下老い夫を宴の席へ肩貸し
てゆく 阿部はぎの

いかならむ夢のなかにて笑みをるや嬰兒の
ととき温もりに触る 高子うこん
電車より降り立つ孫の第一声東京よりも空気が
がうまい 水戸 光穂
やうやくにひぐらしの声ほそぼそと裏山に聞
く夏過ぐる頃 平間 久子
梅雨明けを待ちに待つらむひぐらしのはつか
なる晴れ間のがさずに鳴く 八嶋 正子
啄木のテレビ放送あるを知り腕時計かけ庭の
草取る 山田 演
姉としても慕へる友の入院の報にひたすら快癒
を祈る 佐藤 とく
夏雲の出づる空見て飛び込まん源四郎の岩む
かしを語る 後藤今朝雄

評 一首目。腕のみに非ず、日焼けして輝いて
いたであろうかつての日々を思い、そして
将来を思い遣る歌。単純化を果たしている。
二首目。生まれて間もない蜻蛉を見ての作。
結句が対象を豊かに思い描かせる。三首目。
めでたい今を二人で確かに享受しようとする
心をさらりと詠っている。

俳壇

遠藤 秋尾 選

テント張り終えて憩ひぬ月見草 山家 弘子
遠火花あとから音の届きけり 高子うこん

柳壇

山田 風流 選

日焼して鍛え抜かれて若々し 鈴木 民子
駐在所赤いカンナの燃えつづく 制野 リエ
七夕の終りし竹をかかへ抱き 佐藤 周子
蟬の鳴く途切ることなき句碑ヶ丘 福原 峯子
梅雨茸と言ひて足蹴に茸通 日下 文
気持まで軽くして足蹴に茸通 大庭 良子
涼風や心にしみる鈴の音 菅野 理華
懐かしき顔にも出合え墓参り 水戸 光穂

評 一句目。キャンプのテントを張り終えて
のひと休み、月見草が花開き始めた。時間の
過ぎゆく速さも一句に。二句目。花火を見て
いる場所は遠いのである。後から音が届くと
は、誰もが知っているのだが俳句はこれだよ
のである。三句目。鍛え抜かれた体、しかも
日焼けして歯の白さまで想像される句。
「若々し」が一句を引き締めて好句となった。

公約に期限が欲しい有権者 平間 大恵
年金を手加減なしのパチンコ屋 水戸 光穂
ゴロ寝する子供叱れぬ寒い夏 四竜 英夫
妻病みて一人箸とる味気なさ 高橋 要一
まあいいかいつもここから崩れだす 草野 清
食べて寝て豚にならずに糖尿病 大庭 良子
習っても忘れる事の多くなり 阿部みさ子
梅雨寒を秋と間違え草木たち 佐藤 尚志
書道展心落ち着く葉です 佐久間とみ子
不意の客浮んだ名句忘れ去り 石沢 敏子

評 一句目。期間とは賞味期間のこと。先へ、
次へと送るのでは公約も色褪せる。二句目。
ユーモア満点。三句目。コタツでお盆。今年
の冷夏にカッパ達もゴロ寝するしかない。天
も人も「狂」の字のつくことが多い。せめて
川柳は狂句とならぬように。



国際コーナー International Corner

シドニーでは、各学校で、学年ごとに楽しい合宿や、私が通っていた女子校のように厳しいサバイバル訓練のようなキャンプが開催されます。今月は、一番思い出に残っている中学校3年生のときのキャンプについて簡単に書きます。

同級生は約240人。2、3組に分かれて代わる代わるキャンプに行かされました。登山用の大きなリュックサックを背負って、電車と船で島の山奥に行きました。キャンプ場にたどり着いた私たちは、キャンプの日程を聞きながら、これからの3日間はきっと辛いだろうと皆が思いました。

これからシャワーを浴びる機会がないことを知り、リュックサックから着替えを取ってキャンプ場で預かってもらいました。その代わりに、テント、寝袋、キャンプ用のガスストーブ、肉や野菜や米やラーメンなどのすぐ料理ができる食品、トイレトーパーなどを詰め込みました。びっくりするかもしれませんが、皆が使う便器まで持って行きました。便器を背負う責任者はくじで決め、私はくじがはずれてほっとしました。

岩登りや、アプザイレン（ザイルを使って岩壁を下降すること）をしたり、綱渡りをしたりと軍隊訓練のよう

なことをさせられました。それぞれの場所に移動する唯一の交通手段はカヌーでした。目的地も分からず、ただ指導者の後ろについて行きました。陸地が見えない海の真ん中に漂っていると、この地球で人間は本当に小さく思えて、無力感を悟りました。夜にキャンプファイアを囲もうとしても、皆が疲れていて、早めにテントを張って寝てしまうのも普通のことでした。

3日目の朝、目が覚めたらテントのドアの近くに寝ていたはずの友達がなくて、テントの外でぐっすり寝ていた姿を発見しました。私たちは坂にテントを張ってしまったので、夜中に奥の人がだんだん下のほうに滑ったせいで、押し出してしまったのです。

次の夜は、墓地の中で寝ましたが、テントの近くに穴を掘ってトイレにするのは臭いので、墓地の奥に穴を掘りました。しかし、夜そこまで行くのは怖くて、皆朝まで我慢していました。

ずっとキャンプのことを嫌いだった私も、振りかえってみると確かに辛い経験だったけど、楽しい思い出になりました。しかし、今、キャンプに誘われても私はちょっと…。



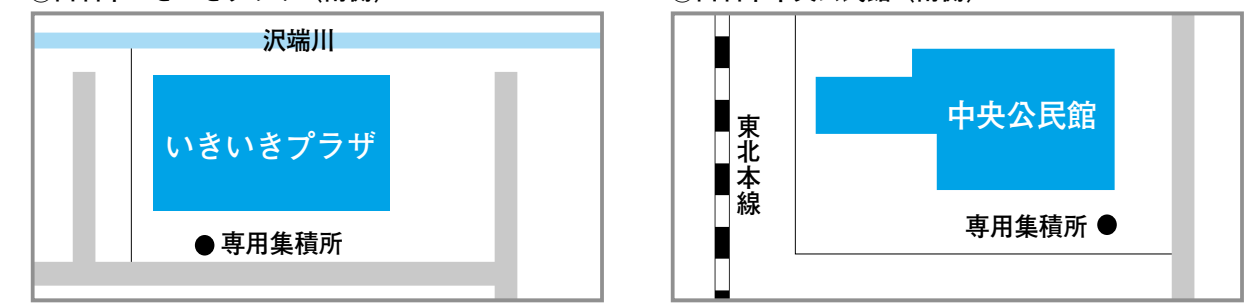
いきいきプラザと中央公民館の敷地内に資源ごみ専用集積所を開設します



一般家庭の皆さんが、資源ごみ（びん類など）をより出しやすくするため、10月5日(日)より、いきいきプラザと中央公民館の敷地内に専用の集積所を設置します。有効にご活用ください。

- 対象物 一般家庭から排出される次の資源ごみ
- ・ペットボトル
 - ・紙類（新聞紙、雑誌・本、衣類、ダンボール、紙パック類、雑紙類）
 - ・缶類
 - ・びん類（無色透明、茶色、その他）
- ※びん類は専用のボックスで回収しますので、資源ごみの袋に入れなくて結構です。

■日 時 毎週日曜日 9:00～12:00



※資源ごみは、「ごみの分別・出し方ガイドブック」のとおり分別して出してください。☎生活環境課 ☎22-1314